

火焰土器

宮坂静生

あめつちの動悸はげしき葡萄採

姥百合の青き花蕊や火焰土器

若きまゝ、老いざるほむら炎鳥甲

入笠山六句

嶺八つ擱むごとくに九月尽

ゴンドラは秋晴八ヶ岳は怒り肩

深秋やこばのとねりこ小葉柀息殺し

龍胆の枯るゝ草魂根を温め

蜻蛉踏み跳べぬばつたを八十歳やその伴

伸びたくなかもみづる梢声放ち

伊賀上野芭蕉祭献詠一句

庖丁やゆたに木の実も草の実も

高山 大井唯史君

荏え胡ご麻ま入り餅売飛驒のよき男

月天へ押し姨捨の灯の襪襦

後の月 杉木妙子さん

小鼓の音色よ栗の澁皮煮

ぼいぼいと泣く十月の猪独活は

次男へ

脂肪肝減らせよ霧の降る町に

狐の提灯ごはごはのバスタオル

